

# 柏崎・刈羽地域 稲作だより No.4

コンパクトなイネづくり 粒張りの良い米づくり 穂肥編

R8. 6. 19

- 高温・多照により全般に生育が早く、特に早生品種では早い状況です。
- 早生品種の穂肥時期が迫っています。必ず幼穂の長さを確認して穂肥診断を行い、適期を逃さずに施用しましょう。
- 中干しは「出穂期 1 ヶ月前まで」に終了し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。

## ◇現在の生育状況（6/10調査データ）

（調査区平均）

	草丈（cm）		茎数（本/m <sup>2</sup> ）		葉数（葉）		葉色（SPAD）	
	本年	指標値比 （指標値）	本年	指標値比 （指標値）	本年	指標値差 （指標値）	本年	指標値差 （指標値）
コシヒカリ	37	123% (30)	280	133% (210)	7.3	0.5 (6.8)	37.2	1.2 (36.0)
こしいぶき	35	130% (27)	434	167% (260)	8.5	1.3 (7.2)	43.3	4.3 (39.0)
新之助	27	96% (28)	184	92% (200)	6.9	0.2 (6.7)	37.0	2.0 (35.0)

- コシヒカリ：草丈「長い」 茎数「多い」 葉数「やや早い」 葉色「やや濃い」
- こしいぶき：草丈「長い」 茎数「多い」 葉数「早い」 葉色「濃い」
- 新之助：草丈「並」 茎数「やや少」 葉数「並」 葉色「濃い」

## 1 出穂期および穂肥時期

（1）穂肥時期・施用量の目安（施用時期は平年の出穂期から算出）

品種	出穂期 （平年値）	施用時期の目安（出穂前日数）		穂肥施用量の目安	
		1回目	2回目	使用資材（例）	kg/10a（窒素成分）
葉月みのり	7/13	6/20 (23)	6/30 (13)	穂肥520号	1回目：10 (1.5) 2回目：10～15 (1.5～2.3)
新潟次郎	7/14	6/19 (25)	6/30 (14)	塩安	1回目：12 (3.0) 2回目：12 (3.0)
こしいぶき	7/25	7/2 (23)	7/11 (14)	穂肥520号	1回目：10 (1.5) 2回目：13 (2.0)
コシヒカリ	8/4	7/17 (18)	7/25 (10)	越後の輝き有機50穂肥	1回目：8～12 (1.0～1.5) 2回目：8～16 (1.0～2.0)
新之助	8/9	7/22 (18)	7/30 (10)	越後の輝き有機50穂肥	1回目：4～12 (0.5～1.5) 2回目：4～12 (0.5～1.5)

◎早生品種の1回目の穂肥施用は、籾数確保のために非常に重要です。適期を逃さず実施しましょう。  
2回目の穂肥施用は登熟向上と品質低下の防止に効果的です。確実に施用しましょう。

（2）幼穂長と出穂前日数の目安

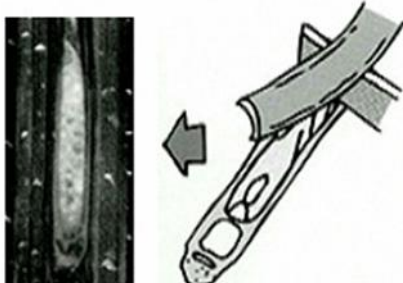
出穂期予測方法 → 平均的な生育の株の主茎を選び、幼穂の長さを確認する（下表）。

穂肥時期予測方法 → 幼穂長から出穂前日数を推定し、（1）の表から穂肥時期を判断する。

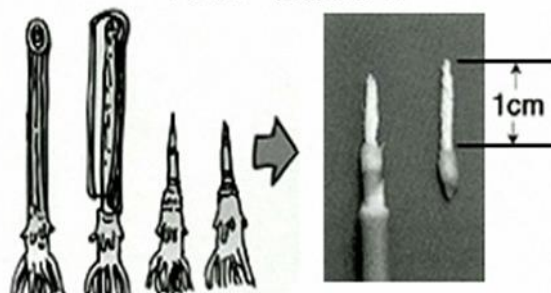
出穂前日数	24日	20日	18日	12日	10日
幼穂長（cm）	0.1	0.4	1.0	4～6	8～11

### <幼穂長の確認方法>

<その1 カッターなどで割る>



<その2 葉鞘をむく>



① 平均的な生育の株を選ぶ

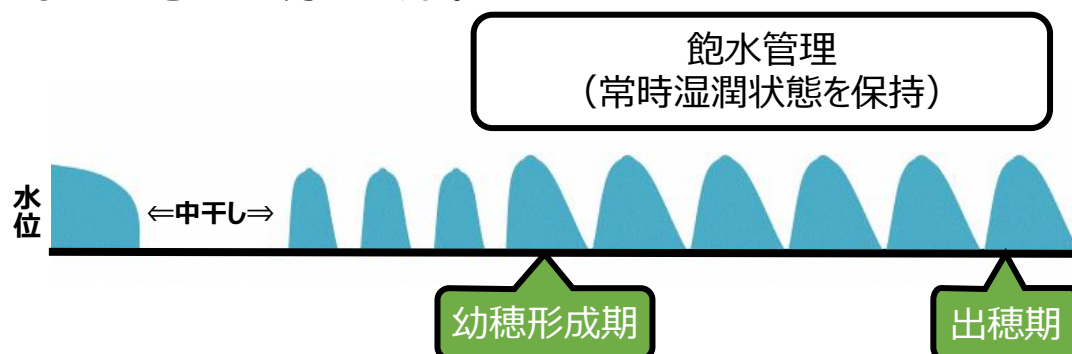
② 株の中で一番長い茎（主茎）を選び株元から抜く

③ 根元に近いところからカッターで半分に裂き、一番上がっている節の上にある幼穂の長さを測る

## 2 中干し以降の水管理

飽水管理：自然に水が減って田面に水がなくなってきたら再び入水。

※出穂期前後は稲の穂が伸長する大事な時期で水を最も必要としますので、田面を乾かさなような水管理をしましょう。



## 3 病害虫の発生・対策

### 【いもち病】

- ・梅雨時期のジメジメした気候が続くと感染が蔓延します。葉月みのり、新潟次郎、わたぼうし、新之助などは予防防除を基本とし、葉いもちの発生を確認した場合には速やかに薬剤防除を実施しましょう。
- ・いもち病の発生源となるので、補植苗がほ場に残っている場合は速やかに撤去しましょう。
- ・いもち病の見分け方のポイント  
イメージとして…いもち病はイネに圧力で侵入するためイネの葉の組織を壊している印象。病斑が細長いイメージ。

### 【病斑の種類】

伝染力の強い病斑

#### 「進展型病斑」

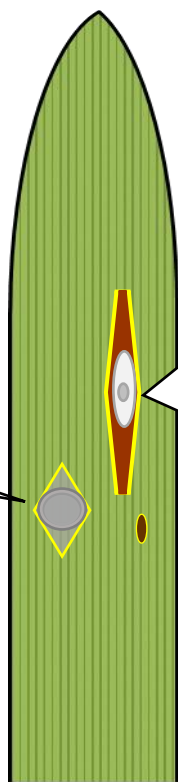
- ・葉がつぶれた時のように湿った病斑
  - ・次第に止まり型病斑になる
- 孢子形成量が多い!!



葉いもちの典型的な病斑

#### 「止まり型病斑」

- ・細長いあるいはひし形に近い形をしている。
  - ・中央は灰色、縁は褐色
  - ・病斑の周囲は黄色
  - ・病斑の色はイネが病原菌に対して抵抗したから
- 孢子形成量が少ない



### 【斑点米カメムシ】

- ・農道や畦畔などのメヒシバ、エノコログサなどのイネ科雑草はカメムシ類の生息地となるので種子が結実しない間隔で草刈りを徹底しましょう。
- ・稲の穂が出る7月下旬以降に除草を行うと、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、7月中旬までに除草しましょう。
- ・水田内の雑草（ノビエ、ホタルイ）は、カメムシ類を誘引し、その増殖を助長するため、除草を徹底しましょう。

◎ SNS・メールで情報提供しています！

<JA えちご中越柏崎地域営農情報>



アカウント ID : @882qbimy



<柏崎農業普及指導センター 稲作メールマガジン>



↑詳細はこちらから

[ngt111840@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt111840@pref.niigata.lg.jp)

- こちらのアドレスに、
- ① 件名は「稲作メールマガジン申込」
  - ② 本文に「氏名」、「電話番号」を記入の上、送信してください。

### 【お問い合わせ先】

全地区共通

柏崎農業普及指導センター 21-6263  
JA えちご中越柏崎地区センター  
農政企画課 21-0220

東部田尻・西中通・高柳

かしわざき営農センター 35-8188

南部高田・中央柏崎地区

かしわざき南部営農センター 41-6087

刈羽・西山地区

かしわざき北部営農センター 45-2258

### 柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、新潟県農業共済組合中越支所、えちご中越農業協同組合、柏崎土地改良区  
柏崎農業普及指導センター（新潟県柏崎地域振興局農業振興部）